

2021 年度 東アジア政治 I 学期末試験

担当：磯崎典世

<注意事項>

- ・基本は「アクセス 1 回」「制限時間 90 分」の論述試験です。出題 3 問で 50 点満点です。事前の指示に従い、Word で解答を作成・提出して下さい。
- ・解答は、最初に氏名と学籍番号を書き、問題番号を明記して下さい。
- ・90 分の論述試験として、かなりの分量の論述解答が求められます。配点を参考にして、各問題に必要な論述の分量を判断して下さい。

問 1：戦後東アジアにおいていかなる国際関係が構築され、いかに変化・変容し、その環境下で各国がいかに国内体制を整備して対外的な対応をしたのか。授業で扱った期間における、冷戦構造の構築と変化を時期区分して整理し、そのもとで各国はなぜどのように政策を選択したのか、同じ環境でも方向性の違う政策が選択される理由が明らかになるように、東アジアの国際関係を国内政治との関連を明確にして論じなさい。下記の論述ポイントを参考に、指定された語句を使用（下線を引いて使用を明示）して論述すること。＜配点：35 点＞

<論述のポイント>

- ・超大国（特にアメリカ）の政策による東アジアの冷戦構造の変化
時期区分を明確にし、なぜどのように冷戦構造が変化したのかをまとめる
- ・日本を含む東アジア各国の対応
各国が環境の変化に対応して、どんな政策を選択し、なぜその選択をしたのか

<語句> 政治的生存、休戦、万年国会、「一つの中国」原則、韓国条項、ニクソン・ドクトリン、サンフランシスコ体制、開発

問 2：授業で紹介した政治学の理論やモデルのなかから任意のものを取り上げ、適切な具体的事例に適用して、理論やモデルの内容を説明しなさい（授業で言及した事例ではなく、自ら適切な事例を選択し応用することが望ましい）。＜配点：10 点＞

問 3：戦後、日本の国際社会復帰とともに、日韓両国の国交正常化にむけた交渉が開始されたものの、その実現には時間を要した。なぜ国交正常化が難航し（対立の争点は何だったのか）、なぜ 1960 年代半ばに決着が図られ、どのような妥結に至ったのか。これらの点を整理したうえで、この条約がその後の両国関係に与えた影響についても論じなさい。＜配点：5 点＞